

人が育つ 地域づくりの未来像

子どもの学び、地域住民の生きがいづくりを行う地域学校協働活動推進員の活動を紹介する通信

共感で“運動”を巻き起こせ ～師弟が手を組むまちづくり～

7

齋藤 憲一 元地域学校協働活動推進員(古川中学校区)
飛騨市古川町出身。吉城高学卒業後、滋賀県の大学に進学し、大阪に就職。26歳のときにUターンし、現在の環境整備事業に携わる。飛騨青年会議所(JC)理事長(当時)。

中村 裕幸 飛騨市立古川中学校 校長
飛騨市古川町出身。2016年には義務教育学校「白川郷学園」の設立に関わり副校長、校長を歴任。2020年より飛騨市教育委員会学校教育課長に就任。2022年4月より現職。



それぞれの立場から「まちの未来を創る」という目標に向かい力を合わせる2人に、これまでの活動、展望などを伺いました。

学校外での活動が子どもへの自信に。そのためには地域の力が不可欠。

— 推進員について教えてください。 —

(齋藤) 私は推進員でありながらJCの理事長として参加しているので、JCが地域にどんな影響を与えられるか、どんな役に立てるか、と常に考えています。

(中村) 推進員って、外から見ると何をやってるのかわかりにくいよね。なので、とにかく活動の目玉がほしくて、よりよい社会作りのために活動するJCの齋藤さんを誘ったんです。

— これまで、どのような活動をされましたか？ —

(中村) 推進員の方々と協力して、3年生のマイプロジェクト(以下、マイプロ)や2年生の職場体験を進めています。

(齋藤) 職場体験はJCメンバーの会社などの協力のもと、進めています。さらに先生のすごいところは、ただの職場体験で終わらせるのではなく、反省する場を作ったことなんです。(中村) ただ単に「ありがとうございました」とか、

「楽しかったです」で終わらせたくない。次につながらないですから。職場体験後に、JCの方々が子どもたちと真剣にディスカッションしています。大人と子どもが真剣に語り合う場は、学校だけじゃ設定できなくて、推進員さんの協力のおかげです。

(齋藤) ディスカッションを終えて、明らかに僕たちの世代とは違うものを感じました。同調圧力が当たり前だった僕たちの世代に比べて、今の子どもたちは、自分の思いを発信したいという積極性を感じています。彼らはどんな大人になるんだらうなあ。

(中村) 確かに今回参加した2年生のメンバーは、学校で見せる姿とは全然違って、自分の思いを堂々と語る姿に僕らも驚きました。だから、場とか環境っていうのがすごく大事だと思っています。

「まちの未来をつくる」が共通目標

— 中村先生も子どもたちの成長を感じますか？ —

(中村) 合唱部なのに、全体の発表となると声が小さいみたいなのがいたんだけど、



2022年7月に「希望の大壁画」前で行われた吹奏楽部による演奏の様子



全文はこちら↓

今やどこでも堂々と喋れるようになりましたよ。大人から褒められるという経験を積むと、どんどん自信がつく。主将とかリーダーになったりしてたいですね。

(齋藤) その土壌を作るのが学校推進委員とか学校運営協議会なんですよ。私たちが青年会議所の使命も提供することなので、とても親和性が高い。こういうのを僕たちは「運動」と表現しています。1人の活動に共感した人間がいると、もう1人、また1人と増えていく。少しずつ人が集まると、それはもう「運動」なんですよ。

※こちらの内容は公開時点(2023年2月28日)の情報です

古中マイプロジェクトを中心に 地域学校協働活動を展開

～活動の一部をご紹介します～



『ほっとルーム』の看板作成をお手伝い

生徒の「やりたい！」を地域から全力サポート 推進員や地域の方が生徒の思いに寄り添います

『職業体験シンポジウム』開催をサポート

学校から依頼を受け、企業・団体へ参加協力を呼びかけ

開催時期的に呼びかけは難航...

推進員自らもグループに入り、生徒と交流

進行サポートにも入ったが、生徒たちが自主的に動けていて感心しました！



古川中学校地域学校協働活動推進員

野道 達也 ・ 手嶋 穂 ・ 堀之内 里奈 ・ 中村 健吾

地域学校協働活動、飛騨市学園構想の最新情報はこちらから！ (Facebook)

